



秋晴れの心地よい季節となりました。今月も最新トピックスをお届けします。

## 国内動向

### ① 「スクリーニング評価におけるデフォルトの有害性クラスを適用する一般化学物質の候補と公表以降の進め方について～有害性情報の提供のお願い～」を掲載(経済産業省・厚生労働省・環境省)

国は、化審法の一般化学物質のスクリーニング評価において、今年度のデフォルトの有害性クラスを適用しスクリーニング評価を実施する一般化学物質の候補を選定し、有害性情報の提供(締め切りは12月22日)を求めるとともに今後の進め方等について発表した。

平成26年度より、有害性情報を入手することができなかった物質や有害性情報の信頼性の観点等から評価することができなかった物質について、事業者へ有害性情報の提供の呼びかけを行い、それでも有害性情報が得られなかった物質については、デフォルトの有害性クラスを適用するなどの対応を具体的に検討することとしている。

[http://www.meti.go.jp/policy/chemical\\_management/kasinhou/files/information/ra/0.default.H29FY.pdf](http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/kasinhou/files/information/ra/0.default.H29FY.pdf)

### ② 厚生労働省による食品衛生法改正懇談会が始まる(厚生労働省)

9月14日に第1回懇談会が開催され、引き続き9月20日に第2回懇談会が開催された。わが国の食品安全をめぐる環境に変化がみられることを受け、「食品衛生管理の国際基準化に関する検討会」や「食品用器具及び容器包装の規制に関する検討会」での検討結果を踏まえ、食品衛生法の改正の方向性等を検討する。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000177613.html> <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000178276.html>

### ③ がん原性試験実施結果の概要の更新(厚生労働省)

「がん原性試験実施結果」にアクリル酸メチルの吸入試験結果が追加された。国は、労働安全衛生法の下で、職場で働く労働者が有害な化学物質にさらされることによる職業性疾病の発生を防止することを目的とし、国自ら既存化学物質の有害性の調査を行うとしており、既存化学物質の中から、製造量、用途、これまでに得られている有害性の知見等を勘案して調査すべき物質を選び、染色体異常試験のほか、実験動物によるがん原性試験を実施している。 <http://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/kag/bio/gan/ankgd58.htm>

## 海外動向

### ① IRISにおける、硝酸塩、亜硝酸塩、クロロホルム、エチルベンゼンの評価計画の発表(米国環境保護庁)

米国環境保護庁(EPA)は、統合的リスク情報システム(IRIS)における、硝酸塩、亜硝酸塩、クロロホルム、エチルベンゼンの評価計画を発表し、30日間の意見募集を開始した。意見募集の締め切りは10月18日。

<https://www.federalregister.gov/documents/2017/09/18/2017-19707/availability-of-the-integrated-risk-information-system-iris-assessment-plans-for-nitratenitrite>

### ② SVHC候補物質の意見募集(ECHA)

ECHAは、新たなSVHC候補物質(ビスフェノールA、クリセン、ベンゾ[a]アントラセン、硝酸カドミウム、水酸化カドミウム、炭酸カドミウム等9物質)について意見募集を開始した。意見募集の締め切りは10月20日。

<https://echa.europa.eu/-/public-consultation-to-identify-nine-new-substances-of-very-high-concern>

### ③ 国際鉛中毒予防行動週間、2017年のテーマは鉛塗料禁止(WHO:World Health Organization)




WHOは、10月22～28日を国際鉛中毒予防行動週間としてキャンペーンを実施。今年は鉛塗料の廃絶に焦点を当てる。 [http://www.who.int/ipcs/lead\\_campaign/objectives/en/](http://www.who.int/ipcs/lead_campaign/objectives/en/) [http://www.who.int/ipcs/lead\\_campaign/en/](http://www.who.int/ipcs/lead_campaign/en/)

## 特集：GHSとその分類項目

今月号から新たに、GHS(化学品の分類および表示に関する世界調和システム)について、分類項目ごとのポイントを解説します。第1回として、GHSの分類項目について紹介します。GHS分類で対象とする危険有害性は、下表に示す29の項目から成ります。

- ・物理化学的危険性が16項目(爆発物など)
- ・健康に対する有害性が11項目(急性毒性(経口、経皮、吸入)など)
- ・環境に対する有害性が2項目(水生環境有害性(急性)など)

### GHS分類の概要(JIS Z 7252:2014による危険有害性分類項目)

| 危険有害性               | 分類項目   | 絵表示   |
|---------------------|--|---|
| 物理化学的危険性<br>(16項目)  | 1. 爆発物<br>2. 可燃性又は引火性ガス<br>(化学的に不安定なガスを含む)<br>3. エアゾール<br>4. 支燃性又は酸化性ガス<br>5. 高压ガス<br>6. 引火性液体<br>7. 可燃性固体<br>8. 自己反応性化学品<br>9. 自然発火性液体<br>10. 自然発火性固体<br>11. 自己発熱性化学品<br>12. 水反応可燃性化学品<br>13. 酸化性液体<br>14. 酸化性固体<br>15. 有機過酸化物<br>16. 金属腐食性物質 |    |
| 健康に対する有害性<br>(11項目) | 17. 急性毒性(経口、経皮、吸入)<br>18. 皮膚腐食性及び皮膚刺激性<br>19. 眼に対する重篤な対員傷性又は眼刺激性<br>20. 呼吸器感受性<br>21. 皮膚感受性<br>22. 生殖細胞変異原性<br>23. 発がん性<br>24. 生殖毒性<br>25. 特定標的臓器毒性(単回ばく露)<br>26. 特定標的臓器毒性(反復ばく露)<br>27. 吸引性呼吸器有害性   |    |
| 環境に対する有害性<br>(2項目)  | 28. 水生環境有害性(急性、長期間)<br>29. オゾン層への有害性   |  |

来月号は、物理化学的危険性について紹介します。

## お知らせ

### ○書籍執筆

製品中に含まれる化学物質のリスク評価と情報伝達に関する書籍「製品含有化学物質のリスク管理、情報伝達の効率化(技術情報協会)」において、本機構の吉川職員と石井職員が以下の執筆を担当しています。割引制度がありますのでご購入希望の方は本機構までご連絡ください。

◇第2章 2節 欧州 CLP 規則と米国 HCS に対応した SDS・ラベルの概要(吉川)

◇第4章 5節 化学物質リスク評価における混合物の取扱いと評価方法(石井)

### ○セミナー「混合物の GHS 分類、SDS・ラベルの基礎と作成法」

10月20日(金)に商工情報センター(東京都江東区)において開催されるセミナーで本機構の吉川職員が講師を務めます。割引制度がありますので参加ご希望の方は本機構までご連絡ください。

<http://www.rdsc.co.jp/seminar/171027>



ご質問等ございましたら、以下の連絡先にお気軽にお問い合わせください。

**CERI** 一般財団法人 化学物質評価研究機構  
Chemicals Evaluation and Research Institute, Japan

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-4-25 日教販ビル 7F

安全性評価技術研究所 研究第二部

Tel: 03-5804-6136 (担当者: 石井(聡)、菊野、林)

URL: <http://www.cerij.or.jp> E-mail: [cac-reach@cerij.jp](mailto:cac-reach@cerij.jp)